

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成20年3月～平成25年3月(5年)

1. 概況

- ・平成23年度から実施中の第5次藤枝市総合計画において、中心市街地活性化を「重点プロジェクト」に位置付け、都市計画マスタープランでは「拠点集約型都市構造への変換」を提唱
- ・「藤枝駅前一丁目8街区（旧：藤枝駅北口・日の出町地区）市街地再開発事業」は、平成24年3月に事業協力者を決定、平成24年度の都市計画決定を目指し事業を推進
- ・「藤枝市中心市街地活性化協議会」の部会として、「駅前地区総合再生会議」「駅北地区活性化連絡会議」が組織され、ハード、ソフト両面から回遊性のある街並みの形成と賑わいと活力の再生を目指す取り組みを開始
- ・活性化の拠点施設と位置付ける官民複合施設「BiVi 藤枝」、複合商業施設「オーレ藤枝」、及び青木地区複合施設「小杉苑」がオープン。各種ソフト事業との相乗効果で、各施設とも予想を上回る集客を記録。特に、「BiVi 藤枝」では、3年連続で目標の120万人を大きく上回る年間来館者を記録。中でも、6月に来館者100万人を達成した「市立駅南図書館」、さらには、平成23年4月に新たな官民パートナーシップにより実現した子育て応援施設「ふじえだ☆おやこ館（会館後1年で来館者2万3千人を記録）」などが大きく貢献
- ・民間開発も順調に進み、平成23年4月に「青木二丁目生活提案施設整備事業（くりっぴーPLAZA）」が、10月には同青木地区に金融機関店舗がオープン、平成24年3月には駅前地区に「藤枝駅前一丁目複合住宅整備事業（マークス・ザ・タワー藤枝計画）」が竣工。今後も駅南北で民間による複数の開発計画が生まれており、さらなる賑わいの創出が期待される
- ・駅南メインストリートのオープンモール化社会実験（て～しゃばストリート事業）を実施。本年は従来の駅南地区だけでなく、駅北地区でも事業を展開。南北連携による賑わい創出の足掛かりとなった。来場者も12日間で約6万人を記録し、市民参加団体も170を超えた。また、駅周辺イルミネーションにおいても民間の参画を得て、規模を拡大して実施。両イベントの市民認知度は8割にもおよび、市内だけでなく近隣市町からも多くの人を訪れ、賑わいを創出
- ・総事業72事業のうち、24事業が完了、41事業が実施中、7事業が未着手となっている

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち	歩行者通行量	6,755 (H18)	8,400 (H24)	8,738	③	③
	宿泊客数	41,488 (H18)	61,500 (H24)	122,983	③	③
結びつきに支えられ、健やかに暮らせるまち	公共施設利用者数	661,955 (H18)	947,000 (H24)	1,004,398※	①	①

注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。※集計錯誤により、6月末時点の内閣府公表数字からは修正しています。

3. 目標達成見通しの理由

・歩行者通行量

時間を要している取組（市街地再開発事業）はあるものの、駅南地区の官民複合施設（BiVi 藤枝）横では前年比 67.7%増となり、駅北地区（スズビル前）においては、ようやく減少傾向に歯止めがかかり、前年比 20.2%増となった。全体では前年比 1.8%減ではあるが、目標値を約 300 人上回る数値を達成しており、今後もその他の取組を着実に進めることにより、目標値の達成は可能であると見込まれる

・宿泊客数

進捗していない取組はあるものの、既に目標値を 6 万人上回る数値（基準値より 8 万人増）を達成しており、現在の取組を持続することにより目標値の達成は可能であると見込まれる

・公共施設利用者数

取組の 1 つである新図書館が平成 21 年 2 月に開館し、目標を大きく上回る入館者数を記録している。さらには「藤枝市文化センター」のリニューアル（市民の活動・交流拠点として再生）により、平成 22 年度以降の利用者は順調に増加している。

その他の施設も取組を持続させることにより目標値の達成は可能であると見込まれる

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

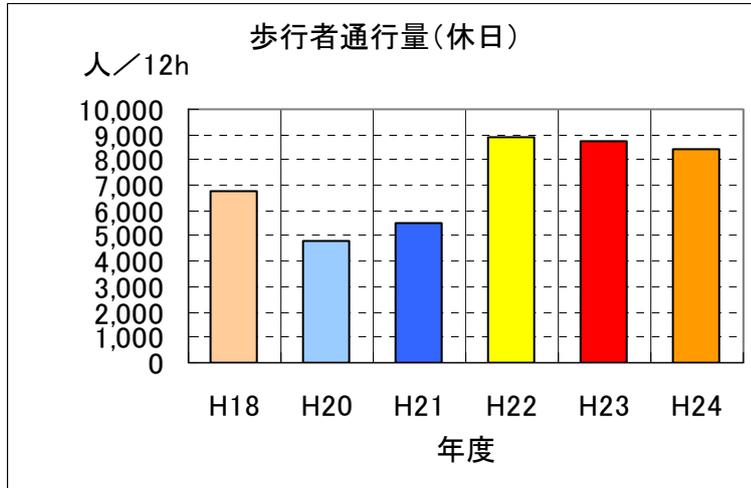
5. 今後の対策

- ・既に 3 指標とも目標値を上回る数値となっているが、今後の推移を見極めながら、目標年度においても確実に目標値を達成できるよう引き続き取り組みを推進する
- ・目標指標の数値は想定以上の数値を達成しているものの、一部の取組効果（イベントの実施等）発現により大きく数値を引き上げている要素があるため、その取組効果の維持とともに、全体効果としての目標達成となるよう、その他の取組も着実に進める
- ・拠点施設のハード整備による効果発現を維持し、さらなる拡大のため、様々な主体の連携によるソフト事業を継続的に展開する。また、一時的なイベントによる来街者数の増加を、恒常的な来街者増加に繋げるため、各取組間での連携を強化する
- ・市民や民間レベルでの自発的なまちづくりの取り組みが進んでいるため、今後はさらなる協働により各目標指標の達成に向けた取り組み効果を底上げする効果が期待される
- ・市街地再開発事業等は、権利者の合意形成や事業手法の変更により事業が長期化し効果発現が遅れることが想定されるが、関係機関との連携や積極的な支援によりできる限り早期の事業化を目指す
- ・住宅供給に追いつかない公共サービス等の住環境整備を、市街地再開発事業等と連携して推進し、特に課題となっている駅北地区の賑わい、コミュニティ再生を図る
- ・認定後の状況変化等により、未着手となっている事業について、事業内容や事業手法の転換等を検討し、早期事業化を推進する

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち」

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P38 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	6,755 (基準年値)
H20	4,811
H21	5,509
H22	8,898
H23	8,738
H24	8,400 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度2月実施） ※調査月；平成24年2月実施

※調査主体；藤枝市 ※調査対象；歩行者・ 休日の12時間（8:00～20:00） 駅南北主要4地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業 [BiVi 藤枝計画] (大和リース株)

(BiVi 藤枝施設整備事業)

事業完了時期	【済】 H20
事業概要	J R藤枝駅南側に位置する市立病院跡地に、民間活力導入により図書館を含む官民複合施設「BiVi 藤枝」を整備。集客力のある民間施設（シネコン・商業店舗）と公益施設（図書館）の相乗効果で賑わいを創出
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年2月28日にオープン、初年度で年間目標来館者数120万人を上回る約164万人の来館者数を記録。平成23年度は、前年度同様、目標を大きく上回る140万人超の来館者を記録 施設前の歩行者通行量が前年度比で2.1%減少したものの、減少傾向であった施設横の通行量が67.7%増となった。

②藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業 [BiVi 藤枝計画] (大和リース株)

(BiVi 藤枝周辺地区活性化事業)

事業完了時期	【済】 H21
事業概要	市民参加型イベントや周辺地区連携・公共交通連携イベントを実施し、地域全体での集客力向上、賑わい・交流創出、公共交通の利用促進を図る
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年2～3月にオープニングイベントを開催（スタンプラリーに周辺商店街の32店舗が参画し、671名が参加）、翌年2月には1周年記念イベント（クイズラリー等）を、その翌年同月には駅周辺施設と連携し、スタンプラリー等を開催、今後も定期的にイベント（周年等）を開催予定。施設の入館者数の増加とともに、周辺店舗（特に飲食店）の売上増等大きな効果を発現している

③新図書館整備事業（藤枝市）

事業完了時期	【済】H20
事業概要	J R藤枝駅南側に位置する市立病院跡地に、民間活力導入により整備する官民複合施設「BiVi 藤枝」の一部（約 3,300 m ² ）を藤枝市が賃借し、収蔵能力 30 万冊の「藤枝市立駅南図書館」を整備 民間施設との相乗効果を図り、また、利用者の増加を図るため、通勤・通学者が使用しやすいよう、午後 8 時まで開館。また、図書館ボランティアによる「幼児お話し会」や「わらべうた講習会（親子手遊び読み聞かせ教室）」、「古本販売会」なども実施。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年 2 月 28 日に開館、初年度で年間目標利用者数 26 万人を大きく上回る約 50 万人の利用者数を記録 ・平成 23 年度においても上記年間目標利用者数を大きく上回る約 43 万人を記録 ・施設横の歩行者通行量が前年度比で 67.7%増加

④藤枝駅南口西地区 A B C 街区開発事業 [新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト] ((有)新日邦)

(A B C 街区複合施設整備事業)

事業完了時期	【未】H22
事業概要	J R藤枝駅南口に隣接する市有地を民間活力導入により有効活用し、市の顔にふさわしい都市機能（ホテル、温浴施設、CATV 放送センター、フィットネスクラブ、商業店舗等）が集積する拠点施設を整備する
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第 I 期事業である A 街区複合施設（CATV 放送センター、フィットネスクラブ、商業店舗等が入居）が平成 22 年 2 月 24 日オープン。初年度目標入場者数 1,200 人（一日あたり）を大きく上回る 1,900 人で推移 ・第 II 期事業である BC 街区複合施設（ホテル、温浴施設、商業店舗等が入居）について、昨今の経済情勢や収益性確保、都市計画手続の必要性から着工が遅れているが、平成 24 年 1 月から事業者との設計協議がスタートし、早期着工を目指すものの計画期間内での効果発現は困難 ・当事業のため掘り出した天然温泉を活用した「足湯施設」は、オープン（平成 22 年 11 月）以来、多くの利用者があり賑わいづくりに貢献

⑤藤枝駅南口西地区 A B C 街区開発事業 [新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト] ((有)新日邦)

(A B C 街区周辺地区活性化事業)

事業完了時期	【済】H21
事業概要	周辺地域・商店街連携した市民参加型イベントを実施し、地域全体での集客力向上、賑わい・交流創出を図る
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年 8～9 月に市民参加型イベント「ぐるぐるグルメ de QR」を開催。中心市街地の飲食店 100 店が参画し、1,425 人が参加 ・平成 22 年からは官民連携による「駅周辺イルミネーション事業に参画」、前述の「足湯事業」と併せ、賑わい創出に貢献。平成 24 年 3 月には、て～しゃばストリート事業と周辺商業施設と連携したイベントを開催し、12,664 人が来場

⑥藤枝駅前一丁目6街区市街地再開発事業（再開発組合）

事業完了時期	【未】H26
事業概要	合理的かつ高度な土地利用により細分化された敷地を統合し、藤枝駅前商店街の中心的な立地に相応しい拠点施設を整備し、賑わいと回遊性のある商業空間の形成、街なか居住の促進、居住環境の向上を図る
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定後、事業区域等の拡大や事業手法の変更があったが、計画期間内での事業化に向けて、合意形成・計画推進を図る ・ 平成21年3月に地元組織「藤枝駅前一丁目6街区再開発協議会」設立 ・ 平成21年度に再開発基本計画策定 ・ 平成22年6月に準備組合設立、同10月には事業協力者として静岡鉄道(株)を選定 ・ 平成23年度に予定していた都市計画決定、組合設立については、一部権利者の合意形成に時間を要しており、都市計画決定を平成24年度に、組合設立を平成25年度に変更した

⑦藤枝駅前一丁目8街区（旧事業名：藤枝駅北口・日の出町地区）市街地再開発事業（再開発組合）

事業完了時期	【未】H26
事業概要	合理的かつ高度な土地利用により細分化された敷地を統合し、藤枝駅北口広場に面する立地に相応しい拠点施設を整備し、賑わいと回遊性のある商業空間の形成、街なか居住の促進、居住環境の向上を図る
事業効果又は進捗状況	<p>計画期間内での事業化に向けて、意形成、計画推進を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成21年度 再開発基本計画策定 ・ 平成22年8月に地元組織「藤枝駅前一丁目8街区再開発協議会」設立 ・ 平成23年度に準備組合設立、本年3月には事業協力者として戸田建設(株)を選定 ・ 平成24年度 都市計画決定、平成25年度 組合設立予定

⑧文化センター地区暮らし・にぎわい再生事業（藤枝市）

事業完了時期	【済】H21
事業概要	施設の老朽化により利用度が低下した「藤枝市文化センター」の耐震・改修を行い、市民交流センターや展示場、ホール等を整備し、市民の活動・交流拠点として再生させる
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成21年11月に改修工事終了 ・ 平成23年度の利用者数は、前年と同様月11,000人で推移

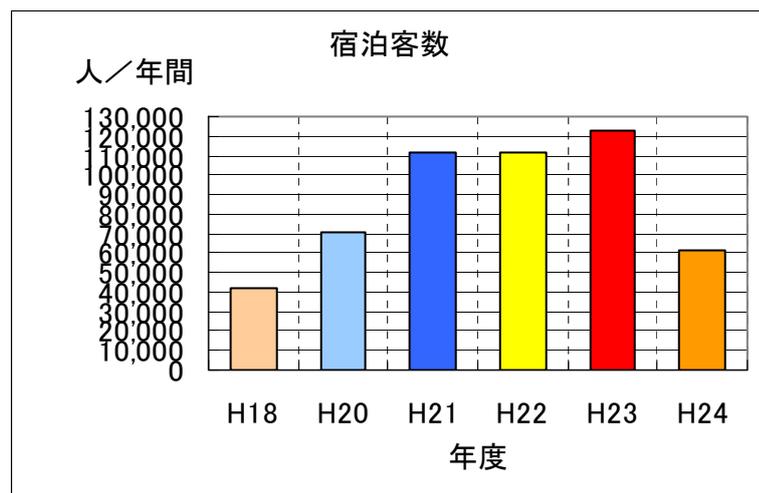
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 前回調査で前年比増を示した「BiVi 藤枝」前で 2.1%減、「文化センター」前で 21.9%減となったが、これまで減少傾向であった駅北（スズビル前）で前年比 20.2%増、「BiVi 藤枝」横で 67.7%増となっている
全体では前年比 1.8%減とほぼ横ばいではあるが、目標値を 300 人以上上回る数値を達成しており、今後も着実に取組を進めることにより目標値達成は可能であると見込まれる
- ・ 大型商業施設や公益施設への来場者について、想定より自動車利用が高い上、周辺への回遊が発生せずポイントでの集客となってしまっているため、駅周辺の大型施設事業者等により平成 20 年に組織された「駅南地区活性化協議会」等と協働、連携した取り組みを推進し、街なかの回遊性を高める
- ・ 課題となっている駅北地区の再生を図るため策定した「市街地総合再生計画」に基づき市街地再開発（藤枝駅前一丁目 6 街区及び藤枝駅前一丁目 8 街区）の早期事業化に向けて推進する。
また、「連鎖型市街地整備方針（市）」「環境に貢献するまちづくり方針（市）」と一体的に取り組むために、平成 23 年度より「駅前地区総合再生会議（ハード事業）」及び「駅前地活性化連絡会議（ソフト）」を立ち上げ、民間企業も含めた多様な主体による回遊性のある街並みの形成と賑わいと活力の再生を目指して、空き店舗を活用した世代間交流事業、コミュニティカフェ事業、また、低炭素なまちづくりに向けたレンタルサイクルでの街なか回遊事業等の検討がスタートした
- ・ 民間による大型住宅供給事業や業務機能整備事業の支援により、街なかの居住者や従業者の増加を図り、恒常的な歩行者通行量の増加に結びつける

II. 目標毎のフォローアップ結果「人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち」

「宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P38 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	41,488 (基準年値)
H20	71,038
H21	111,555
H22	114,341
H23	122,983
H24	61,500 (目標値)

※調査方法；宿泊客数調査 ※調査月 ；平成 24 年 4 月調査・取りまとめ

※調査主体；藤枝市

※調査対象；中心市街地内の 7 ホテル ①藤枝パークインホテル ②ビジネスホテルイレブン

③フジエダオガワホテル ④藤枝サザンホテル ⑤ホテルルートイン藤枝駅北 ⑥セラム 41 プラザホテル
(H20.6 閉館。H20.12 に「ふじえだ泊」としてオープン) ⑦東横イン藤枝駅北口 (H20.10 オープン)

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業〔新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト〕((有)新日邦)
(ABC街区複合施設整備事業) 【再掲】P4 参照

②全日本女子剣道選手権大会開催事業(全日本剣道連盟、静岡県剣道連盟)

事業完了時期	【実施中】H17～H26
事業概要	女子剣道の全国大会を中心市街地内に立地する静岡県武道館で毎年開催 中心市街地における交流を促進する
事業効果又は進捗状況	・毎年9月に開催(H22.9.26開催)選手役員215人、来場者数2,000人 ・宿泊客数(計画:354人、H22:330人) 概ね計画通り ・平成23年度より他県開催となり、現在、本市での開催復活に向け調整中

③全国シニアサッカー大会誘致・開催事業(藤枝市、日本サッカー協会ほか)

事業完了時期	【実施中】H20、H22～H26
事業概要	シニアサッカーの全国大会(50歳～70歳代)を誘致し、毎年開催 中心市街地における交流を促進する
事業効果又は進捗状況	・毎年5月に3日間開催 ・平成23年6月25日～27日(2大会×16チーム340名参加) ・宿泊客数(計画:3,561人、H22:1,600人、H23:1,700人)

④日本スポーツマスターズ2009静岡大会開催事業(日本体育協会ほか)

事業完了時期	【済】H21
事業概要	シニア世代を対象にしたスポーツの祭典。本市ではサッカー大会、空手道大会を開催。中心市街地における交流を促進する
事業効果又は進捗状況	・平成21年9月18～22日の5日間開催。延1,200人が参加 ・宿泊客数(計画:4,857人、H21:4,600人) 概ね計画どおり

⑤ライフル射撃選手権大会誘致・開催事業(藤枝市、日本ライフル射撃協会ほか)

事業完了時期	【実施中】H19～
事業概要	ライフル射撃の全国大会を誘致し、毎年開催。中心市街地における交流を促進する
事業効果又は進捗状況	・平成23年4月23～24日、全日本選抜大会開催。184人参加 ・同年6月25～26日、東日本選手権大会開催。352人参加 ・同年7月2～3日、マスターズジャパンカップ開催。95人参加 ・同年7月15～18日、全日本クラブ対抗大会開催。440人参加 ・同年7月30～31日、全日本マスターズ開催。114人参加 ・同年11月11～13日、全日本クラブ対抗大選抜会開催。389人参加 ・平成24年1月22日、マスターズウインターカップ開催。77人参加 ・宿泊客数(計画:2,340人、H22:4,000人、H23:4,000人) 大会誘致による宿泊者増

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・大規模なホテル建設が含まれる取組（藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業第Ⅱ期事業）が進捗していないものの、新規供給のホテルが順調に稼働し、心配された既存ホテルの宿泊客流出が起これば従来稼働率を確保しており、全体として大幅な宿泊客増となっている。これは一部市外に流出していた潜在需要の掘り起こしができたと考えられる。

今後、現在の状況を持続させることにより目標達成は可能であると考え、引き続き取り組みを推進する

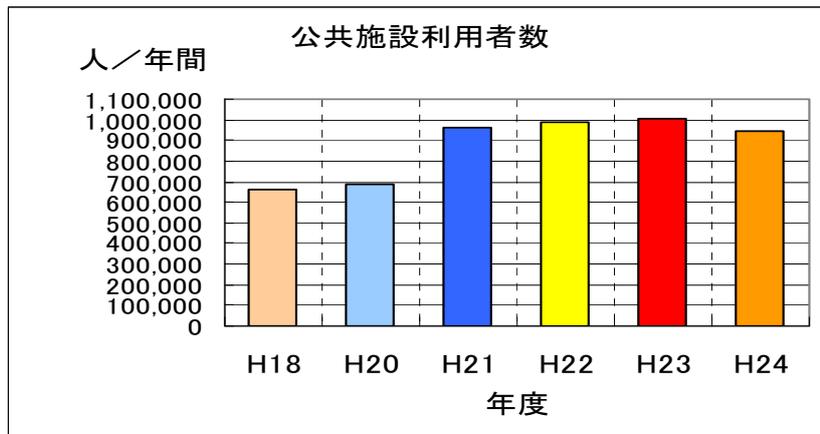
- ・ヒアリングによれば、宿泊目的として「ビジネス」及び「スポーツ大会参加」が多くなっており、さらなる大規模スポーツ大会の誘致・開催に併せて来場者の利便性向上を図り、リピーターの獲得につなげるため、それらのスポーツ大会等の開催時にタクシーや宿泊・飲食などの業界において、多言語によるおもてなしや案内を行う「藤の里歓迎・おもてなし事業」を推進し、安定した宿泊客数と交流の創出を図る
- ・駅北地区の青木地区複合施設及び今後駅南地区に建設予定のバンケット施設を中心に、観光協会や旅行代理店、旅館ホテル組合、飲食店組合等と連携して宿泊や土産、バンケットやコンベンション、レセプションを一元的かつ戦略的に斡旋するネットワークを形成し、宿泊客数の増加や周辺商業への波及を図る
- ・平成21年6月に富士山静岡空港が開港したため、ビジネス客や観光客の誘導を積極的に行い、宿泊客数の増加に努める。同空港の利用者は、需要予測に比べ低迷しているが、県の利用促進事業との連携、旅行代理店や航空会社への働き掛け、さらには市観光協会による商品開発により、空港利用者の効果的な誘導を行う

また、空港アクセス道路の開通（平成23年度以降）に合わせ、県やバス事業者等への働き掛けによりJR藤枝駅からのアクセスバス誘致を行い、宿泊者の利便性を向上させる

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「結びつきに支えられ、健やかに暮らせるまち」

「公共施設利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P38 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	661,955 (基準年値)
H20	685,666
H21	963,559
H22	991,094
H23	1,004,398
H24	947,000 (目標値)

※調査方法；公共施設利用者数調査 ※調査月；平成 22 年 4 月調査・取りまとめ

※調査主体；藤枝市 ※調査対象；中心市街地内の 5 公共施設

①藤枝市民体育館 ②藤枝市武道館 ③静岡県武道館 ④藤枝市文化センター⑤藤枝市立駅南図書館

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①新図書館整備事業（藤枝市）

【再掲】P4 参照

②文化センター地区暮らし・にぎわい再生事業（藤枝市）

【再掲】P5 参照

③市民体育館耐震化事業（藤枝市）

事業完了時期	【未】H24
事業概要	経年劣化・耐震化が課題となり地域防災拠点としての機能が低下している本施設の耐震補強による再生により、市民の身近なスポーツ・健康づくり、子育て・交流の場の提供、安全安心な住環境の向上に寄与する
事業効果又は進捗状況	・平成 22 年度 実施設計実施 ・平成 24 年 1 月～9 月、耐震改修工事施工

④文化センター生涯学習事業（藤枝市）

事業完了時期	【実施中】H21～
事業概要	社会教育の自主事業を行うことで、市民の交流・コミュニティ形成、生きがいの場づくりを行う
事業効果又は進捗状況	・平成 21 年に「藤枝市文化センター」の耐震・改修を実施。2 階会議室を廃止し、市民活動交流フロアとして活用。入居団体が独自の事業を展開しており、事業実施については今後の館利用状況をふまえ検討必要 ・平成 22 年度の利用者数は 132,523 人、平成 23 年度の利用者数は 133,183 人と順調に推移している

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 全体的に取組の進捗状況は順調であり、今後さらなる対策を講ずることにより、目標達成可能であると見込まれる
- ・ 新図書館の整備が平成 21 年 2 月に、文化センターの再整備が平成 21 年 10 月にそれぞれ完了し、利用者が大幅に増加。さらに平成 23 年度の市民体育館耐震化事業により、平成 24 年度以降の利用者増加を目指す
- ・ 文化センターは市民の活動交流拠点として、入居団体と周辺商店街等との連携を深め、地域ぐるみで利用促進を図る
- ・ 新図書館は民間商業施設との複合施設のメリットを生かし、シネマコンプレックスでの上映作品との連携イベント等を開催して付加価値を高め、利用者数の維持、更なる利用拡大を図る
- ・ 利用者数が減少に転じる施設も存在するため、類似施設の指定管理者間の連携を強化し、各施設の一体的な利用等を促進する。また、実施されるイベントにより利用者数が大きく上下する傾向にあるため、イベント誘致やスポーツ・文化教室等のソフト事業の充実により、施設の利用者増に努める